



冬支度はお済みですか？

今年も残すところあとひと月ほど、コタツが恋しい季節になりました。美しい紅葉で目を楽しませてくれていた木々たちからその葉が落ち始め、山も冬支度が進んでいるようです。

❁もう？クリスマス

今年も比内図書館では芸術の秋に、比内公民館の芸文祭に合わせ、図書館まつりとして、雑誌プレゼント、絵本の特別展示、毎年大人気の本のしおり作り体験を行い、たくさんの方に来館・参加していただきました。ありがとうございました。これが終わると冬がくるなあと感じ、クリスマスの絵本を探す方が現れ始めるのが比内図書館の例年風景となっています。比内では、クリスマス絵本は1月になると書庫に移しているのですが、今の時季「どこにありますか？」と聞かれあわてて出してくるというパターンが…。まだまだ利用者の方たちと紅葉スポットの情報交換をしているのにクリスマスって早すぎない？とプレゼントがもらえない大人は思ってしまうのです。そしてこの時期になると耳にする「いい子にしてないと～」のフレーズ。サンタさんを信じるこどもたちにはさぞ効き目があることでしょう。サンタさんの存在、利用しちゃってる大人にも、疑いだしたこどもにもご紹介したい本があります。『サンタクロースっているんでしょうか？』（フランシス＝P＝チャーチ著 偕成社）、今から120年ほど前「サンタはいるの？」という8歳のこどもの質問に記者が答えた、アメリカの新聞の社説を訳したものです。こんなにピッタリな返答があるなんてと感心しました。今なら準備万端ですよ。クリスマス絵本、たくさんご用意してお待ちしています。

❁テーマ展示してます

市内図書館4館でそれぞれ行っているテーマ展示は毎月季節やその時々に合わせてテーマを設けご紹介しています。いまの時期ですと「暮らしを整える」など年末年始の生活や、「冬支度」「冬を楽しむ」など季節に関するものがテーマの題材になることが多くなります。いつもは新着図書や自分の好きな作家の作品にばかり目がいきがちですが、あるテーマに沿った作品を書棚から抜き出し展示すると、新たな読者を得ることも。恒例になっているものもあり、栗盛記念図書館では12月にはミニコーナーで「レクイエム」としてその年に亡くなった著名人を偲んでの著書等の展示があります。4館それぞれのカラーも出るテーマ展示にも注目してみてください。

比内図書館は12月、「2018年総決算」とし図書館らしく受賞作品で今年を振り返ってみようと思っています。

❁文学賞+α

今年の受賞した話題の作品をピックアップして展示しようと思いますが、みなさんは「文学賞」と聞いて、どんな賞を思い浮かべますか？芥川賞、直木賞と、あとは？実はそれ以外にも日本だけでも数え切れないほどの「〇〇賞」があるのです。詩、小説、戯曲、評論、ノンフィクション、絵本に児童書とジャンルもバラエティに富んでいます。とはいえ文学賞は芥川賞・直木賞が有名ですし、今年の話作はやはり芥川賞受賞の『おらおらでひとりいぐも』（若竹千佐子著 河出書房新社）ではないでしょうか。63歳の新人作家さんはお隣岩手県出身、タイトルからして親近感が湧いてきてしまいます。受賞から10カ月を過ぎてなお人気の一冊です。また実は、文学以外の賞も増えていて、「新書大賞2018」では秋田県出身のバッタ研究者の『バッタを倒しにアフリカへ』（前野ウルド浩太郎著 光文社新書）が受賞しましたし、「料理レシピ本大賞」なんて賞もあり気になっています。

主な受賞作の本の背表紙には、受賞情報のラベルが貼ってありますのでそちらを目印にしてみてください。せわしない師走もどうぞ図書館をご利用・ご活用ください。（比内：岸）